

前立腺癌の1例

植松秀昌 田淵達也 新田哲久
藤堂義郎

要旨

リンパ節転移を主として示した前立腺癌の1例を報告した。診断において悪性リンパ腫との鑑別に Ga シンチが非常に有用であった。

はじめに

今回我々は、腹部 CT 検査、超音波検査にて著しい傍大動脈リンパ節腫大を伴った前立腺癌を経験し悪性リンパ腫との鑑別に Ga シンチが非常に有効であった1例を経験したので報告する。

症例

82歳，男性

主 訴：左季肋部痛

家族歴：特記すべきことはなし。

現病歴：本年春頃より左季肋部痛および背部痛をきたし次第に増強してきたため、当院内科受診となった。

現 症：栄養状態は良く表在リンパ節腫脹は認めない。排尿困難などの尿路症状も認めない。

血液検査成績：スクリーニング検査では軽度の

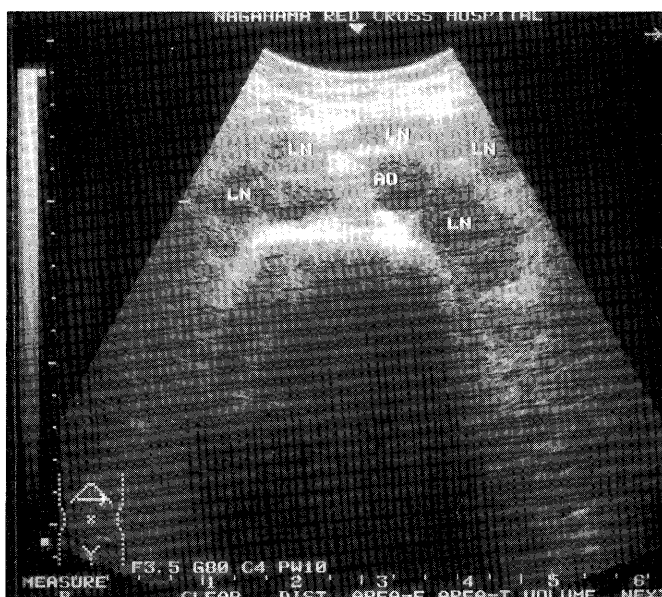


Fig. 1 Ultrasonography demonstrates marked paraaortic lymphnode swelling.

Prostatic Cancer ; A Case Report

Hidemasa Uematsu, Tatsuya Tabuchi, Norihisa Nitta, Girou Todo

Department of Radiology Nagahama Redcross Hospital
長浜赤十字病院放射線科 〒526 長浜市宮前町14-7

LDH 上昇を認めるのみ。

画像所見

1) 腹部超音波検査: 左季肋部痛に対してスクリーニングとして施行したところ、肝胆膵には異常は認めなかったが、傍大動脈リンパ節の著しい腫大を認めた (Fig. 1)。

2) 腹部 CT 検査: 傍大動脈リンパ節および骨盤腔リンパ節の著しい腫大を認めた (Fig. 2)。

3) Ga シンチ: 以上の結果より悪性リンパ腫および睾丸腫瘍のリンパ節転移などを考え、Ga シンチを施行したが、リンパ節への集積は認めず、悪性リンパ腫を積極的に疑う所見は得られなかった。胸腰

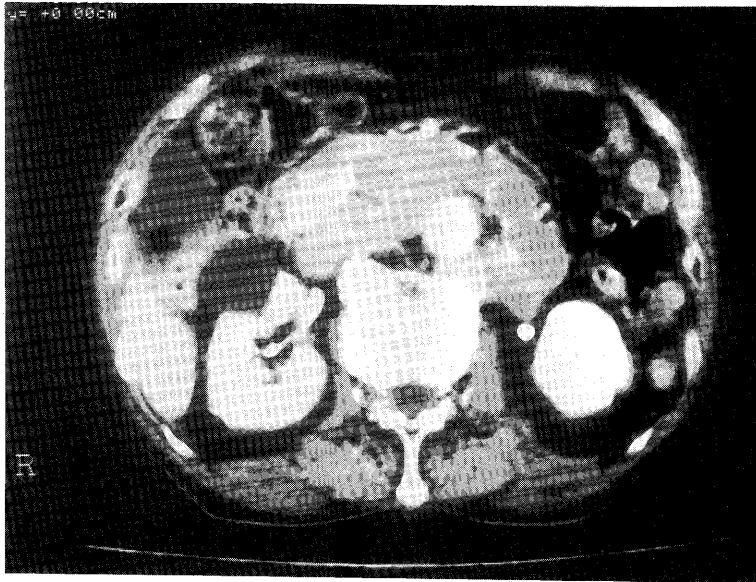


Fig. 2 Abdominal CT demonstrates marked paraaortic lymph node swelling.

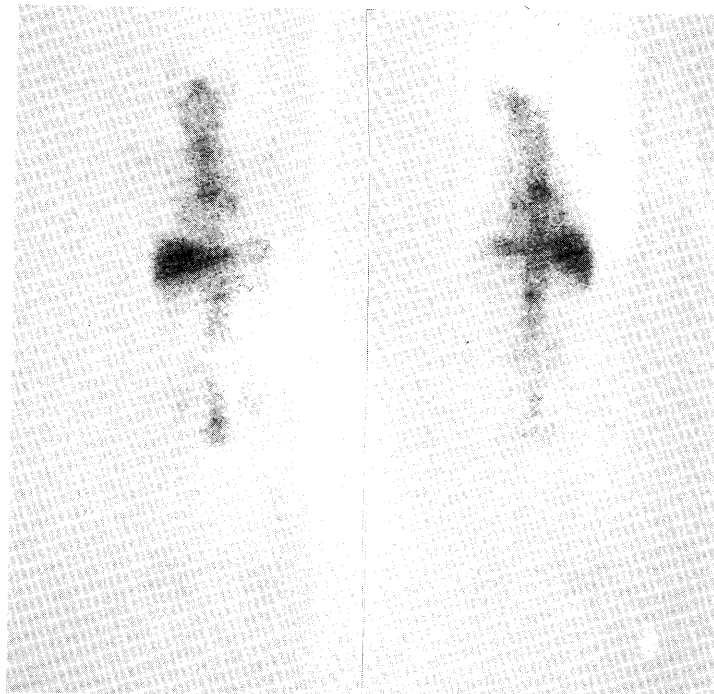


Fig. 3 Ga-67 whole body scintigram. Lymph node uptake is not seen.

椎の一部に集積を認めるが、骨転移を示すものかどうかは明らかではない (Fig. 3)。

4) 骨シンチ: 肋骨に多発する集積を認めこれらは骨転移を疑われた。胸腰椎の一部にも集積を認める。これらは Ga シンチの集積と一致し、単純レントゲンおよび CT より胸腰椎に生じた圧迫骨折および

び変形性腰椎症によるものと考えられた (Fig. 4)。

経過: 明らかな表在リンパ節の腫大もなく、経皮的傍大動脈リンパ節生検も考慮したが、骨転移の存在が疑われ、また高齢者であり前立腺癌を除外するために、泌尿器科受診となった。陰嚢腫大は認めなかったが、前立腺の触診で異常を認めたため前立腺

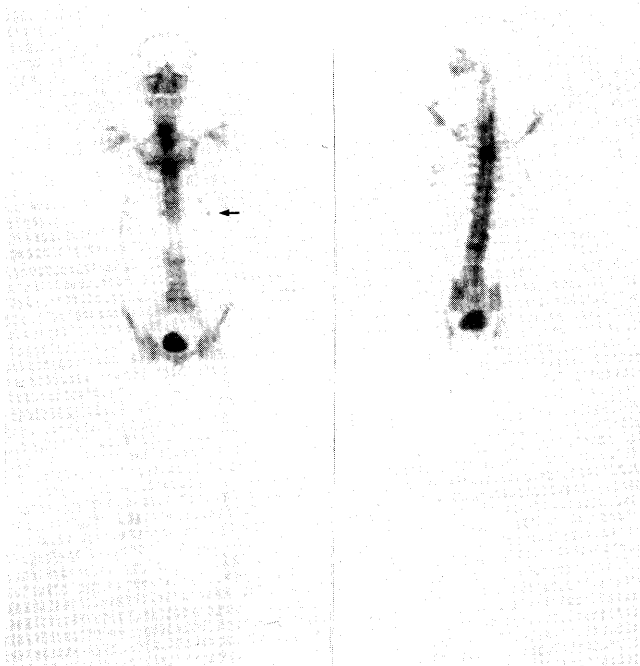


Fig. 4 Tc-99 m MDP bone scintigram. Multiple areas of increased uptake of the rib (arrow) are seen.

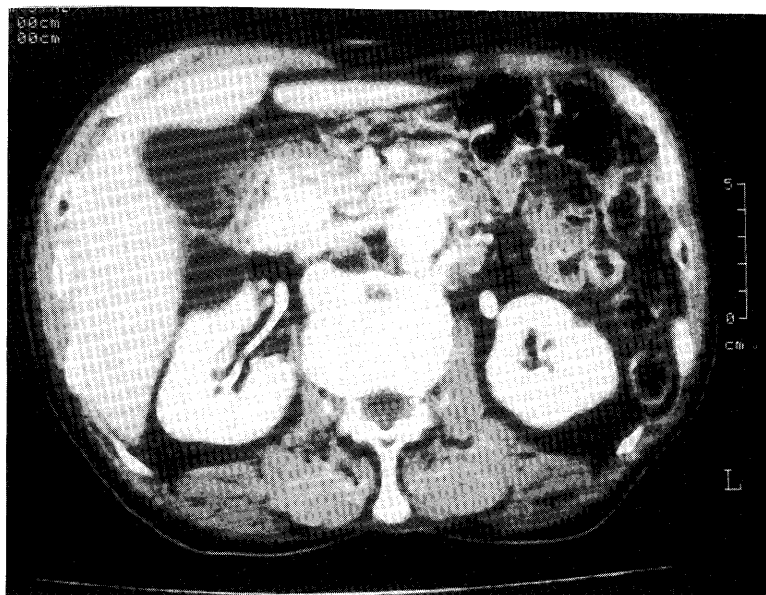


Fig. 5 Abdominal CT (2 months later). Lymphnode swelling is improving.

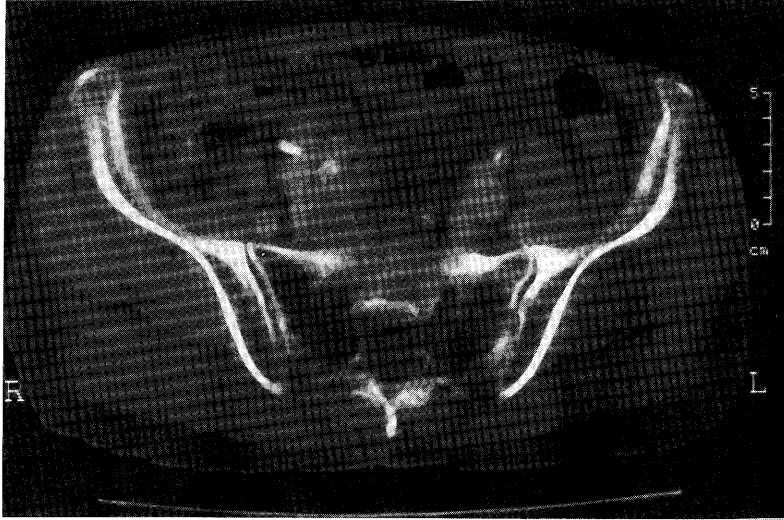


Fig. 6 CT of pelvic bone. Bone metastasis is not seen.

の生検を施行したところ、高分化型腺癌が証明された。PA (前立腺特異抗原) 378 NG/ml (正常値 3.6>) PAP (前立腺酸性ホスファターゼ) 1900 NG/ml (正常値 3>) と増加していた。

腹部 CT 検査 (2カ月後): 除睾術および女性ホルモン剤の投与にてリンパ節は著しく縮小しており、これらのリンパ節は前立腺癌の転移によるものと考えられた (Fig. 5)。

考 察

前立腺癌はかなりの頻度で内腸骨動脈、外腸骨動脈、閉鎖動脈リンパ節などの骨盤腔リンパ節転移がみられることが、知られているが通常傍大動脈リンパ節転移が認められることはまれであり本例のように尿路症状がなく遠隔転移巣が初発症状の中心となるいわゆる Occult Cancer の場合はその診断は困難である。本例もはじめは前立腺癌と悪性リンパ腫を併発した状態とも考えたが、Ga シンチの所見では悪性リンパ腫は否定的であり、高齢の患者であることからこれ以上の精査はせず、前立腺癌およびリンパ節転移として除睾術および女性ホルモン剤の投与で経過を見ることとなった。悪性リンパ腫様のリン

パ節腫大を示した前立腺癌症例も報告されており¹⁾、このような場合 Ga シンチは悪性リンパ腫において高頻度にリンパ節へ集積を示すことがよく知られており、また泌尿器系悪性腫瘍は一般的に陽性率が低く、また組織型別では腺癌の陽性率が低いことから²⁾ 前立腺癌およびそのリンパ節転移への Ga シンチの陽性率は低いと考えられることから Ga シンチは両者の鑑別には有用であると考えられ、本例においても非常に有用であった。

前立腺癌の転移様式としては、骨転移が最も多く認められるが本例では骨シンチ上肋骨に転移を疑わせる集積を認めたが、胸腰椎および骨盤骨への転移は認めなかった (Fig. 6)。

文 献

- 1) Stein BS, Shea FJ: Metastatic carcinoma of the prostate presenting radiographically as lymphoma. *J Urol* 130: 362, 1984
- 2) 西郷勝康ほか: CT にて巨大腹部大動脈周囲リンパ節腫大を発見され、免疫組織化学的検索により診断しえた前立腺癌の 1 例. *内科* 65: 193, 1990
- 3) 坂本 力: ⁶⁷Ga-citrate による腫瘍シンチグラフィに関する臨床的研究. *日本医放会誌* 38: 457, 1978